

講和後の我が國行政機構の建直しという意味で、目下行政機構改革及び行政整理が日々話題の一つとなつてゐる。厚生省がどうなるか、という問題も吾々の病院人の關心事の一つであるが、更に身近な問題として吾々との注目をひいてゐる問題に國立病院の地方移管がある。これは、多年の懸案という意味丈ではなく、かなり根の深い問題だけに醫界就中病院界に於ては、獨り國立病院のみの問題ではなくその影響する所は頗る大きい

と云わなければならない。云う迄もなく、この問題については長年眞剣な検討が重ねられた末斯かる結論が導かれた譯であるが、それは我が國の醫療機關に或體系を具備し、より圓滑な運営を行わしめることにより、ひいては一般國民大衆の爲の病院としてよりよい醫療を普及せしめようと

の意圖から出ていることに他ならぬであらう。併し、夫々の觀點からは又自ら別の意見が出ることは當然であらうし、更に個々の場合について見れば一層問題が複雑になるであらうことは想像に難くない。要は、經營主體を國から地方に變えることに依つて、一般大衆の醫療により多くのプラスを齎すということであらねばならない。終戦後、軍病院を一般に開放することにより創まつた國立病院は、我が國として一般大衆を対象とした最初の國營病院であり、その分布状態よりみても、又施設々備の點に於ても決して満足すべき状態ではなかつたが、發足後數年にして兎に角も全國的な組織を持つ大衆病院としてユニークな存在を占め

て來た事は認めざるを得ないと思う。更に最近は病院管理の面に於ても、他病院に率先して各種の改善を加えられ、新時代の病院として、古い革袋に新しい酒を盛りつゝあつた處である。新しい時代感覺をもつて、これらの病院が地方に引きつがれ本來の目的に副つた運営が行われるならば、國民に齎らされる福祉は恐らく甚大であらう。併し、從來の例にみる如く病院が往々にして地方財政をさゝえる道具に供せられ、又は地方ボスの乗

ずる處となつて病院本來の使命達成を危くせしめられた事實を想起する時、吾々病院人としては、今後の成行を充分關心を以て見守る必要があることを痛感する。これが杞憂に終れば幸いである。

先般本誌の吉田編集委員が渡米の折、日本病院協會長のメッセージを携行したが、講

— 表 紙 説 明 —

本誌本號の寫眞は舊江戸城の堀割りに接し建てられた前田外科病院の全景。寫眞で見らるゝ如く、窓が大きく、採光と換氣が充分考慮されている事がうかがわれる。醫療は一階で、患者の回復への生活は靜かな2階、3階、4階でと云つた具合に院内が人達全部の生活を考へて、合理的な設計様式がとられている。

和に伴い追々國際的な交渉も生れて來ることゝ思われる。お馴染の山元氏による國際病院連合の紹介は参考となる處尠くないと信ずる。

尾村氏のアメリカ病院事情は現地でなくては得られぬ觀察であり、特に特殊病院については我が國の夫と比較して興味深い。高橋氏の米國の病院統計紹介は、第3巻第4、5號所載のものと同連がある。對照比較されたい。綜合病院の要素は、第5巻第2號に續くものであるが、滞米中の島内氏に代つて今後今村氏にお願いすることゝなつた。矢野氏、大須賀氏の論文は、夫々第4巻第5號、第5巻第2號のつづきであり、本號を以て完結とする。(編者)